

## 平成 28 年度 第 12 回西区自治協議会会議録

日時：平成29年3月23日（木）午後3：00～

会場：西区役所健康センター棟1階大会議室

（岩協会長）

平成 28 年度第 12 回最後の西区自治協議会です。それでは議題に入りたいと思います。議題の（1）部会の状況報告です。概要は毎回同じでございますが、各部会長が簡潔に報告をしていただきたいと思います。また今回は各部会で実施した自治協提案事業の事業評価についても併せてご報告をお願いいたします。それでは第1部会の笠原部会長、お願いいたします。

（笠原委員）

第1部会の所管分野は防犯・防災・自然環境・住環境等です。開催日程は3月8日、水曜日、午後1時30分から2時30分まで、出席者はご覧のとおりです。主な議事は「1 第5期の成果と課題について」、前回会議での委員の意見を基に作成した素案について審議し、原案に下記事項を加え、3月本会議で提出することにしました。課題、飛砂防止対策について。毎年飛砂による国道402号線の交通障害や住宅地への被害が発生していましたが、大学や地域住民等との連携により飛砂対策により、改善が見られています。今後はその結果を確認しながら、維持管理の手法についても理解を深め、課題について注視していく必要があります。

「2 防犯と防災に関する講演会について」、第2部会において企画する「幸齢いきいき講演会」と日程が連続することから、西区自治協議会10周年記念事業として、第1・第2部会で連携し、大いに盛り上げていきたいと思っております。全体の事業名称や企画案の詳細については、次期議員による部会に審議を引き継ぎ、決定していただくこととしました。

西区自治協議会10周年記念事業案の概要は下記のとおりです。日程は平成29年9月17日、日曜日。平成29年9月18日、月曜日。これは敬老の日になります。構成は1日目、森田正光氏、13時半から15時まで。これは気象予報士、株式会社ウェザーマップ代表ということです。2日目は第1部として三遊亭楽々氏、13時半から14時半。新潟県特殊詐欺被害防止お笑い広報大使。中に休憩を15分程度挟みまして、第2部、国井雅比古氏の14時45分から16時終了。これは元NHKのアナウンサーで、日本トレッキング協会会長ということです。会場は黒崎市民会館、1階ホール、定員は300名です。

「3 その他」。総務課より新潟市の刑法犯罪の発生状況について説明があり、万引きに

については、高齢者の割合が多いことを確認しました。また新潟西警察署管内の交通事故の発生状況についても確認しました。総務課より、「こども110番の家」の見直しに関する新潟県警察署の取り組み状況について説明がありました。以上です。

(岩協会長)

ありがとうございました。ただいまの第1部会の報告について、皆さま方何かご意見、ご質問等がございませんでしょうか。先ほど言いました、提案事業の事業評価。これも一緒にお願いします。

資料2「区自治協議会提案事業 事業評価書」、上に(案)となっているものです。

(笠原委員)

すみません。事業評価についてです。これについて、私ども第1部会で今、ご覧になっていただければ分かりますように、今ここで全部読み上げるのは大変なことです。時間短縮ということで、事前配布という形で皆さまのお手元に配られておりますので、これを見ていただいて、その後皆さまからご質問等をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいいたします。

(岩協会長)

分かりました。今、部会長のご報告でございます。事前配布しておりますので、各部会の提案事業の事業評価について、第1部会について、何かご質問、ご意見等がございませんでしょうか。

それではないようでございますので、第2部会の報告をお願いいたします。

(郷委員)

第2部会です。第2部会は所管分野が保健福祉・文化・教育等です。第2部会12回の会議は3月8日、水曜日、午後3時から4時まで、西区役所3階303会議室にて行いました。出席者は書かれていますとおりです。主な議事、「1 第5期の成果と課題について」です。前回会議で、委員意見を基に作成した素案について審議し、原案のとおり、3月本会へ提出することとしました。そのときに出された主な意見は下記のとおりです。多岐にわたって地域課題を検討してきたが、少子化問題には社会や制度が深く関係し、自治協として解決策を提案実施するのは難しいことではないか。保健福祉となっておりますが、このところ高齢化問題についてずっと地域課題を考えてきておりました。ただ高齢化だけではなく、少子高齢化の社会をどうやって暮らしていくかというところを考えますと、少子化についてももう少し何か企画とか事業をしたほうがいいのかという話も出ましたが、少子化についてなかなか自治協として解決策を提案する事業を行うのは難しいのではないかと

という意味合いで、この2行を書かせていただいております。そしてまた、本当に少子化なのだろうかという委員からの意見も出、西区では新通小学校が大きくなりすぎて分離するというので、児童数は増えているのではないかという意見。本当に世間一般で少子化と言われているが、ここでの問題はどうか。あと少子化ということの、いろいろな角度から考えていくことができるのではないかという意見が出て、それについて討議が深まっていきました。次期においては、まず少子化について委員同士の理解を深めることから始めていくという形で、みんなで確認をいたしました。

あと現在は地域包括ケアが大きな課題となっているが、他部会においても同様に所掌は広く、次期に重点的に取り組む課題を絞って進めていくことが適当ではないか。保健福祉となりますと、今地域包括ケアシステムが変わるといふところの大きな節目になっていますので、2部会で学習会を重ねていくということは、今の課題にマッチしているのではないかというご意見もいただきました。

「2 平成 29 年度幸齢いきいき講演会について」。先ほど1部会長より報告がありました。今回は1部会、2部会が一緒になって、西区自治協議会10周年記念事業として、大きく行っていくということで理解を深めました。ただし日程が17日、18日という敬老の日を挟んでいます。各町内やコミュニティ協議会で敬老の日の事業などと重なると、なかなか参加が難しくなってくるということも考えまして、なるべく日程は来年度早々には広報し、周知を進めていくとお話がありました。

「3 その他」、退任委員の方からごあいさつをいただき、次期につなげる思い等をお聞きしました。

2部会での、今年度の提案事業の事業評価です。資料2の2ページ目、3ページ目に書かれております。まず2ページ目の高齢化をテーマにした講演会、鎌田實先生をお呼びしての講演会。そして西区つながりでの「本州東日本西区長サミット 2016」と連携して行えたことはとてもよかったのではないかと。参加者のアンケート結果からも9割以上の方がよかったと、鎌田先生という遠い存在の方から近くに来ていただいて、じかにお話を聞くと、本当に参加した方が元気をいただき、頑張っただけで暮らしていこうという気持ちになったという感想がとても多かったと思っております。ただあまりに人気なため、なかなかキャンセル待ちとか、当日運営など、難しい部分がありましたので、来年度はその辺りもう少し円滑な方法を検討していくといいと思っています。

またもう一つの事業であるスポーツ鬼ごっこ普及啓発事業です。昨年度は裾野を開拓するというのでライセンス講習会をしましたが、今年度は広く子どもたちに知ってもらうということで、「みどり森の運動公園」で行なわれた「ふれ！ふれ！西区ふれあいまつり」のときに体験会を行いました。参加者が52名というたくさんのお子さんたち、そして大人が集まって、本当に初めてやったけど楽しかったとか、ルールも分かりやすかったとか、またやりたいとか、本当にアンケート結果としては、8割以上の人たちが肯定的な意見を出

してくださいました。これも来年度に引き継ぐために、来年度は西区の中でコミ協対抗大会ということで、スポーツ鬼ごっこの定着を図っていこうと思っています。以上です。

(岩協会長)

ありがとうございました。第2部会の報告について、何かご質問、ご意見等がございましたでしょうか。先ほど第2部会長から報告がありました。4月1日から地域包括ケアに伴う総合事業がスタートするというので、これについては、私どもをはじめ、住民の方々、まだまだ理解できない面が多々あるということ、今部会長が報告いたしましたので、これについても第2部会は大きな問題を抱えているという認識でございます。ありがとうございました。何かご意見ご質問等が。

なければ第3部会の塩川部会長、お願いいたします。

(塩川委員)

報告申し上げます。第3部会、所管分野は農林水産業、商工業、交通等でございます。実施は平成29年3月10日、午後3時から4時まで。主な出席者は記載のとおりでございます。主な議事といたしまして「1 第5期の成果と課題について」。前回会議での委員意見を基に作成した素案について審議し、原案に下記事項を加え、3月本会に提出することといたしました。成果といたしましては、商店街等の活性化について、内野地区商店会・商工会関係者との意見交換や内野地域の視察により、現状や課題について理解を深め、商店街等活性化研究・実践事業につなげることができました。委員から出された意見は下記のとおりです。次期の商店街等活性化研究・実践事業の実施にあたっては、部会委員も大学研究チームや地域の関係者とともに意見交換を行いながら取り組んでいけるとよいのではないかと。

「2 2018西区の特産物・観光地カレンダーについて」。協議の結果、西区の特産物や観光地等を効果的に発信できるように、各月の掲載写真テーマを下記のとおり決定いたしました。1月から12月、記載のとおりです。企画案の詳細については、次期委員による部会に審議を引き継ぎ、決定することとし、写真公募の準備については下記のとおり進めることといたしました。募集期間、4月下旬より6月中旬の1カ月半程度。募集内容、各月の掲載写真テーマに沿ったもの。6月、10月を除く。現在だけではなく、昔の写真も併せて募集。応募資格は不問です。広報、区ホームページ、フェイスブック、区だよりへの掲載、区公共施設等へのチラシの設置。

「3 その他」。地域課長より、内野駅前広場整備に乗り入れる新潟交通バスの対象路線について報告があり、内野駅と路線バスのアクセスについて、理解を深めました。対象路線は大堀線(W44 榎尾系統)、黒鳥線です。

事業評価です。4ページ、5ページを見ていただければと思います。西区特産品カレン

ダーについて、記載のとおりです。事業評価としては回答数で中段に、①カレンダーはいかがですか、とても良い、まあまあ良い。キャラクターがいかがですかと聞いたところ、総じて良いという結果が出ました。よかった点は、やはり写真の市民公募により、市民参加が促され、住民と一体となって制作された魅力あるカレンダーとなりました。特産物や観光地について魅力を感じた、知らなかった等の意見があり、目的である区の魅力をPRする役割を果たすことができたのではないかと考えております。認知度が向上し、配布を待ち望んでいたとの意見が多くあり、区民をはじめ、とても愛着を持ってもらえるものとなりました。改善点は応募掲載された写真の地域に偏りがあったため、次年度はテーマを決めて、月ごとに公募や委員等による収集方法を選択することで、市民の参加を促しつつ、より効果的なPRカレンダーとなるように検討いたしました。

5 ページ目、商店街等活性化研究実践事業。これは先ほど申し上げた内野地区で、新大さんおよび新潟国際情報大学さんと商工会等でディスカッションしました。提案内容としては新潟大学「C a f e 四つ角」。空き家を内野地域の情報発信ツールとして、また学生、地域住民の交流スペースとして活用し、魅力ある拠点とすることで、来場者を増加させ交流を促進する提案がありました。これはなかなか事業計画としては、私の分野の商工会としては、なかなかお金がかかることで誰が手を挙げるかというのが問題になっています。

次、新潟国際情報大学、「うちのDEこすぷれ」。コスプレイベントの定期開催を通し、若者の誘客、内野地域の飲食店などの利用につなげ、賑わいを創出する提案です。これは昨年も評判がよかったので、また次期もやっていただきたいと考えております。

事業評価につきましては記載のとおりです。やるとまた時間を取りますので、以上でございませう。

(岩脇会長)

ありがとうございました。ただいまの第3部会の報告について、何かご質問、ご意見等がございますでしょうか。坂井委員、お願いします。

(坂井委員)

公募委員の坂井です。先ほどの報告の中で、内野地域の商店街活性化の問題について、部会委員も一緒に地域や学生の中で一緒に取り組んでいけるようにとありまして、それは私が申し上げてきたように思いましたので、少し今、今年度の部会での問題意識を持って、大学に投げかけて、大学側が検討してプランを作るという形式になってしまったのです。私自身はずいぶんまちづくりカレッジというのがあちこちでやっていて、大学の授業として商店街に店を出すというのがあるのです。昨年度、10月15日、16日に、名古屋学院大学でマイポストという店を出したことがあるのですが、そこを中心に二百数十名の学生と先生方が集まって、研究会をしたりするということが全国でいろいろな自治体に、大学自

身の研究の課題として、地域の課題に応える大学になるということでの取り組みが始まっています。新潟大学も新しい学部ができます。地域創生学部というのが。そういうことでもっと突っ込み方が足りなかったと。私が計画を聞いたときに、3カ月ぐらい問題を投げ、結論を出すということになって案を作ると、そんな簡単な問題ではないのだろうと私は思いながら、ひとり抱えきれなかったわけであります。例えば学問的に言えば、商店街の問題で言えば、戦後の商業政策の変遷だとか、百貨店法や大店法といった変遷だとか、世界のまちづくり、商業政策づくり、地域づくりということで、相当学問的に、場合によってはフィールドワークで、できればいたるところに訪問しに行って、話も聞いていくということが必要なのです。例えば世界の問題で最近2〜3カ月、この2月、3月出た本で、『フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか』という本があったり、それから3月に出た本ですが、『ドイツのコンパクトシティはなぜ成功するのか』、副題は「日本はなぜ失敗するのか」という副題ですが、そのような研究がどんどん行われていて、そのレベルで今の内野の問題とか新潟の商店街の問題というのは考えないと、簡単に解決つかないわけです。そういう点で言うと、もう少し大学自身も地域に関わって、そのことを何か、あれこれ思いつきの提案をするということではなくて、さっき塩川会長が新潟大学のカフェの問題については、誰がやるのかはっきりしないからなかなかできないというので、内野の場合もそうなのです。どの人がやるか分からない提案というのは提案ではないのです。提案ではあるのだけど、具体的にその他は新潟大学が責任を持ってやる。その上でリスクを負うために、新潟市の商業政策というのがありますが、そういうところも含めて一つ一つ確実にやっていかないと、商店街活性化はそんなに簡単な問題ではない。

そういう意味で言うと、少し前の議会でここで問題にありましたが我々も腹を据えてというのが、本当に必ずそれをやるぞと。大学にもその責任を持ってもらおうと。お互い。そうすることが学問の今求められることでありますし、われわれの地域の自治協の求められることでもありますので、そういう意味でいうともっと、われわれも覚悟がそういうところは必要だと思って、少し話をさせてもらったことがありましたので、そういうことです。以上です。

(岩協会長)

ありがとうございました。今、部会長の報告がありました。商店街活性化研究・実践事業ということで、これからは少子高齢化に向かいます。特に少子化、人口減でございます。それに向かってどういう対応をすればいいかということは、新潟市の大きな課題になっておりますので、これからは学生を活用したような、こういうまちづくりといいますか、または多くをやっていくのが、これから求められる地域課題ではないかと思っています。質問、意見等がございませんでしょうか。

なければプロジェクト1、大谷部会長、お願いします。

(大谷一男委員)

広報紙の編集発行を担当していますプロジェクトチーム1の会議概要を報告いたします。3月6日の午後3時から第12回の会議を開きました。出席者は会議概要記載のとおりです。主な議事でございますが、まず最初に、3月31日発行の広報紙第21号についての構成を行いました。意見は2件ほど来ておりました。なお、本日机上に印刷したものが届いていると思います。

それから引き続き第5期の振り返り。「第5期PT1の成果と課題(案)」の内容について確認を行いました。

引き続き第22号の企画ですが、こちらについては新しい年度の委員の任務となりますが、編集体制が定まるまで時間がかかりますので、現在のプロジェクトチームで企画することにいたしました。1面は第6期委員の紹介と新しい会長、副会長のコメントを掲載し、2面と3面については西区自治協議会発足10年を迎えた協働のまちづくりの軌跡をたどりたいと思っています。また新区長へのインタビューなども予定しております。それから4面は「知ったクなっく街のタネ」、「私にとっておきの1枚」。それから先ほど1部会長、2部会長からも話のありました防災に関する講演会、それから「幸齢いきいき講演会」、いわゆる西区自治協議会の10周年記念事業の9月17日、18日の日程をアナウンスする必要がありますので、この内容のお知らせを入れて、編集後記でまとめたいと思っています。簡単ですが、以上でご報告いたします。

(岩協会長)

ありがとうございました。ただいまのPT1の報告について、何か質問、ご意見等はありませんでしょうか。皆さま方に配布した各自治協の広報紙が出ておりますので、これも参考に見ていただければと。いろいろユニークな紙面づくり、皆さま方どこでも努力しているということが、先ほど拝見しましたら伺えました。

それではなければPT2はないのですね。ではPT2の事業評価を渡邊副部会長、お願いいたします。

(渡邊委員)

それでは事業評価の最後のところだけ、簡単に報告をさせていただきます。PT2は西区のアートフェスティバルを担当しています。今回は音楽・芸能部門、それからアート展示部門というようにして、分けまして、アート展示部門が新しく今回はつくったということでした。音楽・芸能部門についても、中身を、例えば午前と午後に1団体、いわゆる特別ゲストをつくりまして、演奏していただきました。アートにつきましては、野外彫刻などによる空間演出や、あるいは西区内の職人さんたちによる工芸作品とか、あるいは西川

の絵画、ポスターコンクール入選作品や、西区ふれあいカレンダーのイラスト原画および公募作品等を展示したものでした。今回は、来場者は延べ846人という形になっています。

アンケート結果ですが、大変有効回答者は354名で、回答率については41.8%でしたが、アートフェスティバルはいかがでしたかという問いに対して、とても良いというものが64.7%、それからまあまあ良いというのが15.5%ということでございます。普通というのが5.4%、不満というのが0%、やや不満も0%、無回答が14.4%という形でした。非常に評価としてはアンケートから示されているように、不満意見がなくて、高い満足度と継続の要望が多く寄せられたということでございます。今後出演団体の参加意欲につながるような、発表の場として開催を継続していきたいということです。以上、報告をさせていただきます。

(岩協会長)

ありがとうございました。ただいまの報告について、何か質問、ご意見等がございましたでしょうか。なければただいまの自治協議会の提案事業、事業評価については、今ほど皆さま方からご報告をいただいたとおり、今年度の事業を振り返ったものでございます。特に皆さま方のご意見がなければ原案どおり市民協働課へ提出いたしますが、いかがでしょうか。

(拍手)

ありがとうございました。ではそのようにさせていただきます。では事務局、手続きお願いします。ありがとうございました。

それでは続きまして部会の状況報告ということで、特別部会でございます。委員推薦会議の報告をお願いいたします。大谷座長、お願いいたします。

(大谷勇委員)

大谷です。所管分野につきましては、区自治協議会の委員の構成の検討および選考、推薦となっています。第5回の推薦会議を開催しました。3月6日であります。会場、出席者はご覧のとおりです。「1 第6期委員推薦案の決定について」ということで、資料1に基づき、事務局より次期委員について、皆さま方のお手元に配布されています資料3のとおり承諾状況および各団体からの推薦状況について説明がありました。審査の結果、原案どおりということで、西区自治協議会に条例施行規則第4条第3項の推薦を行うことにいたしました。委員全体構成につきましては、全体で36名、1号委員15名、2号委員12名、3号委員4名、4号委員3名、5号委員2名ということで、トータル36名であります。

その他委員意見は下記のとおりです。新たな委員からはできるだけ多く会議に出席していただき、活発な審議、活動を期待するということです。せっかく推薦あるいは公募で当選された方々にあります、この機会を大いに活用して、活発な意見をさせていただきたいという期待感であります。次期公募委員募集にあたっては、引き続き多くの方から関心



を持って応募いただけるように、周知活動に努めているということが出されました。

「2 その他」につきましては、今後の委員就任手続きおよびスケジュールについての説明があったということです。3月23日、本日になりますが、本会提出・審議、市長へ推薦、4月1日委嘱という段取りになっています。以上です。

(岩協会長)

ありがとうございました。ただいまの座長の報告について、何かご質問、ご意見等がございませんでしょうか。何か私の聞いた話ですと、女性が16名で44.7%ということです。前回よりは2名増えたということで、女性の活躍という意味ではよろしかったのではないかと思います。また委員の皆さま方には、自治協は活発に審議、議論していただきたいと思っております。

なければ、以上で部会の報告を全て終了し、議事の(3)番目、次期西区自治協議会委員の推薦についてです。失礼しました。終わりました。ありがとうございました。これは皆さま方、今ここで了承したということで、2の議事(3)の時期西区自治協議会委員の推薦ということです。ただいま座長から次期委員の推薦について説明をいただきました。これまで議論を重ねた推薦会議の選考結果を尊重し、原案のまま市長に推薦することとしてよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございました。異議なしと認めましたので、ありがとうございました。それでは事務局、手続きをお願いいたします。

続きまして議事(4)第5期西区自治協議会の成果と課題ということでございます。これは資料の4でございます。これについては先ほどの事業評価と非常に関連をしておりますので、もうすでに事前配布をしてあります。お読みいただいたと思いますが、私から概略だけつまんでご報告いたしたいと思っております。それでまとめのページの3、成果と課題の3のところに「はじめに」というところがございます。分かりますか。資料の4の3ページ。2ページは委員の構成名簿があります。3ページの2に「はじめに」というところがございますね。よろしいですか。

ということで、西区自治協議会ではこういうテーマについて、近年の少子化とコミュニティの希薄化に指摘されるということで、地域を取り巻くいろいろな情勢が絶えず変化していると、地域の課題の多様化、複雑化する中で、これまで以上に区民と行政が協働してきめ細かく地域課題に対応するというので、広報紙の発行や自治協議会の発足10年を境にして、改めて諸団体との連携。特に新潟大であるとか商工会とか農業団体ということで。これは皆さま方事前に読んでおられたので省略しておきたいと思っております。

3番目については取組内容・成果と課題。本会について。活動の活発化ということで、いろいろオリエンテーションなども書いてあります。それから3の(1)のイ、自治協議

会委員の成長を図る西区独自の「区自治協議会委員研修」等々について、ほかの区でやっているところとやっていないところもあるのですが、やはり委員のスキルアップということ。あと地域包括ケア。それとウです。今後の自治協議会の提案事業の取り組みについて。平成 27 年度は 5 つの事業がありました。読んでいただければ、平成 28 年度は 6 つありましたということで、先ほどの事業評価が皆さま方から報告がありました。おおむね区民の賛同を得たと理解しています。

次のエについて、意見聴取。これは皆さま方いろいろな形で意見聴取をそれぞれ行われたということです。

ア 第 1 部会については先ほど部会長が説明いたしたとおりで、ここは省略させていただきます。あとその他についても、第 2 部会、第 3 部会、それからプロジェクトチーム等々については、もうすでに皆さま方部会のほうで相当審議なされて、先ほど事業評価で承認されたものをここにまとめて書いてあります。

私が一方的にしゃべったので、もう皆さま方ご理解していると解釈いたします。ということで、議事の 4 番目、私が概略を説明いたしました第 5 期の西区自治協議会の成果と課題について、提案事業など部会に関することは各部会でご審議いただき、全体に関することについて、運営会議で確認し、作成いただきました。すでに皆さまは先ほど確認されたものと思います。成果については、先ほどの事業評価。私が簡潔に説明いたしました確認を行っております。次期に引き継ぐ課題を中心に簡潔に各部会長から要点を本来ならば話していただく予定でございますが、事業評価のほうでもうすでにされておりますので、ここは省略させていただきたいと思います。皆さんのほうで、少し省略した関係もあります。事前配布ということで特にご意見がありますでしょうか。坂井委員。

(坂井委員)

今回は最後の自治協で、21 人の方が残って、15 人の方がお去りになりますので、この文章の中身がどうということではないのです。西区の自治協議会というのはずいぶん頑張っているということ、少しお互いに確認して励まし合うということでありまして、実はここはきちっと部会をやって、その後に本会をやって、部会報告をしています。北区と南区と西蒲区は、本会同じ日の次に部会を全部やります。私みたいに勉強のために 3 つ出たくても出られないし、部会が基礎になって、それが本会に下がってくるという仕組みにはなっていない。そういう意味でいうと、自治協の委員というのは、ずいぶん西区の人は頑張っておられて、2 度しか呼ばれないのだけど、3 度も、4 度、私も委員会に出ますし、会長は 5 つも 6 つも出ておられて、そういう意味でいうと非常に活発で、中身も私はずいぶんしっかりしている部会だと思います。さっき広報紙のことがありましたが、東区の広報紙でクイズに答えが百二十いくつで、わが西区は三百二十いくつ。そういう意味でいうと十分ではないですが、西区の自治協について、カレンダーも 1 万 3,000 部配るわけです。

から、多くの区民に浸透していくという意味でありまして、そういう意味では非常に苦勞があるけれども、ずいぶん頑張っている自治協議会ではないかと。出席がどうだという話があって、どこも申し上げませんが、数字を見ただけでもよそで部会を12回やっているというのはあまりないと思います。そういう意味で非常に頑張っている協議会だということをお互いに、私は幸いにしてまた次期もやることになりましたので、頑張りたいと思いますが、そういうことをお互いに検討をたたえながら、西区づくりに頑張っていきたいということでお話申し上げました。

ついでに実はうちの町内で茶の間がありまして、千羽鶴を近くのパステル保育園の子どもたちにプレゼントしたのですが、新潟日報が来て4月に載るそうです。政令指定都市の10周年の記念の特集をやるのですが、その中の茶の間の問題で、この間、西坂井団地の1週間に4回茶の間をやっていると言いました。市の市報でね。4月になってからの政令指定都市の問題、地区での問題で、そういう茶の間が、私らが載るということがありましたので、一応ご報告しておきます。以上です。

(岩協会長)

ありがとうございました。ほかに何かご質問、ご意見等がございませんでしょうか。確かに坂井委員が申し上げたとおり、8区においては西区が多様な意見でいろいろな議論をして活発という、お褒めの言葉は聞いております。ただいろいろと各区においても事情等がありますので、それは西区が素晴らしいとか、よその区は駄目だとか、そういう評価は私はできないと思いますが、皆さま方の活発なご意見で盛り上がっていると私は理解しておりますので、ありがたいと思っています。

それではみなさんから特に意見がなければ。三富委員。

(三富委員)

すみません。公募委員の三富です。この27年度、28年度の西区自治協議会成果と課題という題で(案)となっておりますので、これはあれですか。成果はいいのですが、課題については第5期に引き継ぐという意味で取っていいのでしょうか。それともただ提案しているだけなのでしょうか。

(岩協会長)

前回もそうでしたが、引き継ぐというように理解していただければ。私の第5期でこういう議論をしました。けど残された課題があります。こういうことについて一つ議論をしていただきたいということでございます。そう理解してください。よろしいですか。

(三富委員)

分かりました。では6期の人がこれを受け取ればいいのですね。

(岩協会長)

それを参考にしてやってもらいたいということです。

(三富委員)

分かりました。

(岩協会長)

ありがとうございました。ほかに何かございませんでしょうか。

それではご意見がなければ原案どおりといたしたいと思います。ありがとうございました。なお、また皆さま方、もう一度読んでみて、ここはこのように修正したほうがいいのではないかと、もう一回これをこの趣旨を私どもに確認したいということになればまた私どものほうにご一報いただければと思っております。どうもありがとうございました。

それでは次、3番の報告事項(1)平成29年度の西区の予算についてです。ここで皆さま方にこういったスケジュールになっていますが、この予算については、少し時間の制約がございますので、次期でよろしいですか。駄目ですか。新年度に改めて、区づくり予算を説明いたしたいと思っておりますので、よろしいでしょうか。

では担当のほうからご説明をするということでございます。お願いいたします。

(本多副区長)

ごめんください。西区の総務課の本多です。では西区の主要事業につきまして、資料5に基づいて説明させていただきます。すみません。座って説明させていただきます。まずページ1ページの下からいきます。平成29年度の西区の予算総額ですが、これについては直接配分される予算総額は37億3760万5,000円です。これは前年比に比べまして、約10億8,000万円の減額となっております。減額の主な理由は、内野の集会施設の建設事業が終わったことと、それから黒埼出張所の改修工事が完了したということで、事業費の減額となっております。続きまして、2ページをお開きください。事業の説明に先立ちまして、まず「西区の区ビジョンまちづくり計画」における「目指す区のすがた」について説明します。西区では区ビジョンとして、平成27年度から平成34年までの8年間で、ご覧の5つの西区の目指す区のすがたの実現を通じて、魅力的な西区づくりに取り組んでまいります。下のほうに西区の特色ある区づくり事業という表がありますが、今ほどお話ししましたローマ数字のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴとありますが、それぞれの目指す区のすがたに対応した事業が書いてあります。

まずはじめに「特色ある区づくり事業」についてです。この事業は区独自の課題解決に

向けた取り組み、区の魅力や特徴を生かした取り組み、区民と協働により取り組みなどについて、区自治協議会のご意見をお伺いし、区において内容を決めることのできる事業です。総額は 3,200 万円となっており、来年度はご覧の事業に取り組みます。時間の関係もごさいますので、これからは新規拡充事業を中心に説明させていただきます。3 ページをお開きください。はじめに区ビジョン、人と人がつながり安心・安全に暮らせるまち関連事業で、「西区健康応援事業」です。市としましても、健康寿命の延伸ということで、来年度も力を入れていくことで、西区においてもまず最初に西区健康応援事業を説明させていただきます。

生活習慣病や介護予防など、区民の健康寿命を延ばすことを目的に多種類の健康教室やイベントを開催し、区民がいつまでも元気で、より健康的な生活を推進できるよう、支援を行います。具体的な取り組みとして、ウォーキング初心者教室、ロコモ予防体操を行う西区発、健康ステップアップチャレンジ、通称「西チャレ」を今回は会場および回数を増加して実施するほか、ウォーキング講習会の対象を、既に受講された方にも広げて実施いたします。また栄養の講座や歯科指導等の健康づくり教室、体操教室受講者の自主グループ活動支援なども引き続き実施いたします。

次に「あんしん・ふれあい・ささえあい事業」です。高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、孤立化を未然に防ぐための支援、地域住民の見守り支援体制づくりを進めます。具体的な取り組みとしては、地域の茶の間の活性化を図るため、これまでも実施してきましたバスツアーに加え、地域の茶の間関係者が一堂に集まり、運営団体同士のネットワークづくりを促進するため、西区地域の茶の間交流会を開催します。また高齢者のみの世帯から一人暮らしになった方のために、専門職員が継続して訪問支援する、高齢者等孤立防止訪問事業を新規事業で実施いたします。その他小学生を対象にした認知症サポーター養成事業を、区内全小学校に呼びかけして開催いたします。4 ページをご覧ください。

次に「西区子育てサポート事業」です。子どもの各世代に対応した子育て支援講座を実施し、育児の不安や孤独感の軽減、仲間づくりを支援するとともに、子育て支援関係の交流会を開催し、ネットワークの充実を図り、西区の子育てをサポートしてまいります。

次に「西区安心安全推進事業」です。具体的な取り組みにつきましては、防災関係では地域の避難マップの作成や、自主防災組織の結成助成、小中学校への防災教育の支援などの実施とともに、災害別の各種ハザードマップや、非難する際の注意点をまとめた冊子「西区避難ガイドブック」の作成を進めてまいります。なお現在県が作成中の新たな津波・浸水想定については、今年の 8 月ごろにできると県が発表しています。それを受け、市もその後、津波のハザードマップを作成し、平成 30 年度には皆さま方に印刷をする予定です。

交通安全では、今年度より始めました中学生を対象にしましたプロのスタントマンによ

る交通事故の再現した体験型交通安全教室を来年度も実施いたします。新規といたしましては8区の中で特殊詐欺の被害が一番多いということもございます。また空き巣の被害も西区が8区の中で2番目に多いという実例もありますので、その犯罪の発生状況や対策について、皆さま方に、各自治体のほうに回覧などでお知らせをしながら、また警察等と連携して、防犯に対する講演会などを実施いたします。

5ページをお開きください。続いて区ビジョン、都市と農村が融合するまち関連事業で、「おいしい西区魅力発信事業」です。新たな取り組みといたしましては、都市農村交流ツアーでは、首都圏からの農業体験モニターツアーを実施し、都市と農村の交流推進、また農村地域の受け入れ側の向上をはかるとか、引き続き西区の農産物の情報発信や食と農の学校に取り組んでまいります。

次に「西区の野菜まるかじり教育連携事業」です。これにつきまして、新たな取り組みといたしましては、収穫体験、生産者工場、料理教室の3つの講座のメニューを設定し、区内の小中学校が希望講座の選択をして事業を実施するほか、同じ農産物を対象に3コース全てを実施するモデル校を設けます。また引き続き、栄養士、調理人、給食現場職員による連絡会議を開催し、学校給食での地場農産物の使用量の拡大の取り組みを進めてまいります。

6ページをお開きください。次に「特産農産物のコーディネート」です。食と花の名産品、くろさき茶豆等、スイーツ等加工品を活用して、商店街活性を目指すほか、いもジェンヌの生産消費拡大、加工品の開発支援などを農商工連携により推進いたします。

続いて、区ビジョン、誰もが学び合える学術と文化のまち関連事業で「探検、発見！！西区こども特派員」です。次世代の西区を担う子どもたちに、外に出て実体験として西区の特徴などを知ってもらい、区の理解と、郷土愛を育んでももらいます。例としまして、佐瀨や川の立体交差など、いくつかのテーマで現地取材してもらいまして、子どもながらの視点を壁新聞等にまとめていただき、区役所など公共施設に掲示をする予定としています。また区民の皆さまにも、西区をよく知ってもらう機会を設けていきたいと思っています。

7ページをご覧ください。次に「西区スポーツ応援プロジェクト」です。区民の皆さまにスポーツの楽しさを知ってもらうとともに、体力向上や健康増進、児童、生徒の健康育成を図ります。事業としては継続でございまして、例に書いてあります6つの事業については、中学生などを対象に継続して進めてまいります。

続いて、区ビジョン、豊かな自然と快適な住環境を大切にするまち関連事業で、「育て！エコな子、西区っ子」です。小中学生が環境について学び、考え、行動する機会を充実させ、環境保全やきれいなまちづくりへの関心と意識を育むという取り組みを行います。具体的な取り組みについては4つの事業で、これは西蒲区と共催しながら、また小学生や中学生を対象に取り組んでまいります。

8 ページをご覧ください。次に「みんなの力で目指せごみゼロ！きれいな西区づくり事業」です。ごみのないきれいな西区の環境づくりを推進するため、コミ協や関係団体と連携し、西川、新川の清掃や、海岸のごみ拾いなどをはじめ、西区全域の環境美化活動に取り組みます。事業については継続で、ご覧の3つの事業を継続してまいります。

次に「いきいき保安林づくり」です。海岸保安林を保全し、環境整備を進めて、近隣住民の生活を守るとともに、市民の憩いの場として活用するため、ボランティア団体の育成強化を図ります。

続きまして、9 ページをご覧ください。次に「歩いて見つける！西区の宝 おもてなし事業」です。西区内の佐潟、黒埼、内野など、観光資源を中心とした観光コースに加え、新たに佐潟周辺の砂丘地の地形や、自然景観などをコースとすることで魅力アップを進め、交流人口の拡大を図ります。また観光ボランティアガイドの育成に加え、案内看板の設置や観光施設をめぐるためのレンタルサイクルを行うなど、観光客の受け入れ態勢を支援し、満足してもらえる環境づくりをすすめます。

続いて区ビジョン、地域と区役所が共に歩むまち関連事業で、「出動！西区地域盛り上げ隊（中学生みらいデザイン編）」です。次世代を担う子どもたちが、地域をよりよく知り、地域に関する関心を高めることを目的に、地域の課題解決の方法を考えるワークショップを開催します。来年度はモデル実施的に、一つの中学校の一つの学年を対象とし、地域住民と話し合いながら、地域の課題解決の方法と、それを実現するためのアイデアを考える講座を開催します。開催した結果をリーフレットにまとめまして、中学校に配布し、校区内の自治会に回覧する予定としております。最終的には、そこで出たアイデアを学校、地域協働で実施できるよう、支援をしております。

10 ページをご覧ください。次に「西区PR大使（かがやき大使）事業」です。平成28年4月に西区出身の元タカラジェンヌ越乃リュウさんを西区かがやき大使に任命いたしました。新年度も引き続き、区の事業の参加やSNSを利用した西区の情報発信に努めてまいります。

次に区づくり事業の最後「区自治協議会提案事業」です。これにつきましては、地域の課題の解決や地域活性化を図るため、西区自治協議会の皆さま方から、自ら企画運営をするもので、上の6事業を予定しております。

11 ページをご覧ください。次に区づくり事業以外の主要な事業についてご説明いたします。まず「新潟海岸飛砂対策事業」です。今まで飛砂により国道402号線の路面に堆砂して、交通障害等を起こしていた事情があり、平成26年度から対策事業を進めてまいりました。過去5年間の飛砂対策、除砂作業、除砂費用が、大体年間700万円程度かかっていたところですが、26年度以降から事業をやった効果といたしましては、700万円かかっていたところが200万円になったと500万円の減額が見られると。加えて、堤防をつくったところの402号線の除砂の作業はなくなったということですので、今後もこの効果

などを検証しながら、引き続き飛砂防止柵の設置などを進めて、対策に努めてまいりたいと思っています。

最後に「市民農園整備事業」です。立仏の市民農園が3月に閉園することになりました。当該施設を撤去しまして、現状に伏するとともに、市民農園として農業を体験できる場を維持するため、新たな市民農園を旧板井小学校跡地に整備いたします。なお、新市民農園は平成30年の4月の開園を予定しております。以上で平成28年の西区の主な事業について、説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

(岩協会長)

ありがとうございました。ただいまの区づくり予算について、皆さま方ご質問、ご意見等がございませんでしょうか。松井委員、お願いします。

(松井委員)

1号委員の松井です。単純なあれで教えていただきたいのですが、1ページ目の歳出予算の37億とあります。ところがこの内訳を見たところ、37億ありません。その他おちがあるのか、その辺について説明をお願いいたします。それから、今いろいろご説明いただきましたそれぞれの事業の予算、それをバーッと足しても1億ぐらいのものではないかと思えます。そうすると、予算内訳のどの部分とどの部分が、そういう主要事業だけでそんなにいっぱいにならないのですが、表紙の額と今ご説明いただいたそれぞれの項目をどう結び付けたいのか、少し教えていただきたいと思えます。

それからもう1つ最後、板井小学校のグラウンドの農園は、それは30年と今お話がありましたでしょうか。そうすると、立仏はたぶんこれで終わると思えますが、その間は農園はなくなるということでしょうか。以上です。

(岩協会長)

ではお願いいたします。

(本多副区長)

歳出予算については、37億3,760万5,000円ということで、おっしゃるとおり予算の内訳について合計しますと、きっちり37億3,760万円にはならないと思えますが、一応主要な項目出しだけ、今書いてあるものがございます。これ以外にも地域の施設の整備費や、多少事業費が抜けている部分があります。あともう一点、今の総事業費を足すと1億何千万というのですが、それがこの中の事業のどれに適応するかというお話でよろしいでしょうか。



(松井委員)

それがどう結び付くか。予算内訳にそれぞれ載っている中で、その予算内訳の主な項目をご説明されたと思うのですが、その説明された予算額を足しても、ほんの微々たると言ったら失礼ですが、1億ぐらいにしかならないのです。そうすると、7億や5億があるのですが、少しこれがほかの本当に大事なものが落ちているのかと思ひまして。すみません。

(本多副区長)

今ほどは、当初お話ししているとおり区づくり予算ということで、ある程度区のほうで地域の課題に対応することが自由に行けるといふ予算ということで、区づくり事業を主に説明させていただきました。総額としますと、当初申し上げたとおり3,200万円ということで区づくり予算があったと思います。それが、すみません。分かりづらい表になっておりますが、2ページの区政推進事業の8,629万円のうちの3,200万円が区づくり事業になっております。それが今くり返しですが、地域の課題等に対応するような予算としておりまして、それ以外は2ページを見ていただくと書いてあるとおり、地域施設の維持管理費や、道路、公園の維持管理というものが通常の維持管理費ということとそれから大きな費用としましては、やはり職員が340名程度おりますが、人件費が20億程度ということで、また再度くり返しですが、主に課題解決のために自由になるお金というのと、区づくり予算の3,200万円が主な事業になります。また区づくり事業以外で課題解決のために進めていった事業も区づくりではありませんが、説明をさせていただきました。

(岩協会長)

よろしいでしょうか。また後で担当のほうから具体的に説明いたします。よろしいですね。ありがとうございます。それでは時間が詰まっておりますので、これで区づくり予算については終えたいと思います。

(本多副区長)

それと市民農園の関係です。

(岩協会長)

では市民農園だけ回答します。

(小栗農政商工課長)

簡単に説明させていただきます。小栗です。黒埼地域、3カ所市民農園がございます。そのうちの立仏については、この3月で閉じさせていただくと。残り2カ所は継続をして市民農園を楽しんでいただく状況です。1年間板井で整備をしますので、その間、立仏は4

0 区画あったのですが、その部分が1年間少なくなって、30年度にほぼ同規模で設置をしたいと考えています。

(松井委員)

分かりました。

(岩協会長)

ありがとうございました。ということでございます。申し訳ございません。次に移りたいと思います。

4、その他でございます。次第のその他でございます。ありがとうございました。まず私から提案でございます。第5期の西区自治協議会では正副会長と各部会長から成る運営会議にて、本会の議題の調整などを行っておりました。第5期、立ち上げと同時に正副会長、継続委員の各部会長らの協力による世話人会として、第6期の各部会が立ち上がるまでの間、運営会議に代わるものとして、本会の議題調整などを行ってはどうかと考えておりますので、皆さま方、どうぞございましょうか。いかがいたしましょうか。ちょうど時期がまたがるので、即部会もまだ立ち上がっておりません。運営会議も立ち上がっておりません。すぐ本会議というわけにいきませんので、その前の運営会議に代わるもの、世話人会ということでございます。ということは正副会長、副部会長もまだ互選でございますので決まっておりますということでございますので、ご理解をいただきたいと思います。皆さま方、どのようにお諮りしたらよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございました。異議なしということでございます。それでは世話会に委員として私から提案をさせていただきます。第5期の正副会長に加え、郷第2部会長、塩川第3部会長、大谷一男PT1部会長、永吉PT2部会長、および大谷勇推薦会議座長、これは第1部会の副会長を兼務しています。この皆さまにお願いしてよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございました。異議なしということでございます。ありがとうございました。ほかに事務局から何かございますか。

(事務局)

恐れ入ります。それでは若干ご連絡をさせていただきます。今期の自治協議会は、本日ももちまして終了いたします。今ほどご説明のとおり、第6期となります平成29年度西区自治協議会会議開催についてですが、年度当初委員各位のご日程も混み合うことから、事務局と運営会議でご相談させていただきましてとり急ぎ、4月と5月のご日程のみ調整させていただきました。4月第1回の会議は、4月28日金曜日、午後3時から、会場はこちら

らと同じくでございます。そして5月、第2回の会議は5月29日、月曜日、午後3時から。会場は本日と同じでございます。第6期の委員の皆さまには、改めて文書にてご案内させていただきたいと思えます。年度初め、ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、お繰り合わせのほど、お願いいたします。また本日配布させていただきましたチラシ、西内野コミ協10周年記念冊子など、それ以降につきましては、各種お知らせとなりますので、後ほどご覧ください。そして本日はこちらの休憩後、4時半より市長との懇談会が予定されておりますので、よろしくをお願いいたします。会長にお返しいたします。

(岩協会長)

ありがとうございました。時間も迫っております。皆さま方、何かご意見、お知らせ等がございますでしょうか。ありがとうございました。ここで少し休憩を挟みまして、午後4時30分から市長との懇談会が行われますので、引き続きよろしくをお願いいたします。それでは、平成28年度第12回西区自治協議会をいったんここで閉会させていただきます。ありがとうございました。

(終了)

## 市長と西区自治協議会委員との懇談会 2017年新潟市の取り組み

(岩協会長)

本日は篠田市長より2017年度の新潟市の取り組みとしまして、来年度の取り組み事業や予算などについて、お話をいただきます。市長の説明は20分程度でございます。その後の質疑応答も含めて、全体でおおむね約1時間、午後5時30分までの予定です。なお、質疑応答につきましては、本日は自治協委員との懇談の場であることから、ご発言は委員の方に限らせていただきます。それでは市長、よろしくお願いいたします。

(篠田市長)

本日は大変お疲れのところ私にお時間をいただきまして、誠にありがとうございます。また年度末、この年度でご退任という方も何人かいらっしゃると思いますが、長い間のご貢献に深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

それでは私はこの資料を基にご説明をさせていただきます。少し資料の関係で座って説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

まず2017年新潟市の取り組みという表書きです。日本一安心な政令市を構築しようと81万市民と新たな10年に向けたまちづくりを考える、そんな節目にさせていただきたいと思っております。そして下のコマです。政令市移行後10周年になります。この年度末で丸10年が経つということです。この機会に、これまでのまちづくりを振り返り、そして今後の方向性を市民の皆さまと共有しようと、その節目の式典ということで、4月8日、土曜日でございますが、りゅーとぴあで10周年記念行事を開催します。記念式典、そして記念事業、これはかなり楽しいものも用意してあるようですので、ぜひ皆さまからもご参加いただければと思っております。今後新たな10年に向けたまちづくりに踏み込んでいく重要な年であるという位置付けです。

次のページが人口減少時代への対応ということで書いてあります。平成27年2015年の国勢調査、新潟市の総人口81万人ちょっとと、前回、5年前と比べて、1,744人減少しました。0.2%減ということであります。ただ2010年のときに、新潟市の総人口は80万ちょっとになるという予測を、国の人口問題研究所が出しておりました。しかし実際には81万人を確保したということです。取り組みによって人口予測は改善もされれば、もっとひどいことにもなるということなので、これからの取り組みをしっかりとやっていきたいと思っております。

そして新潟市の総合計画、新潟未来ビジョンは平成27年度からこの総合計画のもとにまちづくりを進めています。そして「新潟市まち・ひと・しごと創生総合戦略」もつくりましたので、重ね合わせて推進をしまいたい。特に総合計画、未来ビジョンでは、3つの都市像を明記しています。安心協働、環境健康、創造交流都市ということであります。

この都市像を確立していきたい。また新潟暮らしの良いところを伸ばし、改善すべきは早期に改善するという、新潟暮らし創造運動を展開することで、人口の流出を抑え、流入を促していくというのが基本的な方向です。

そしてその下に新年度の当初予算が書いてあります。昨日、新潟市議会 2 月議会が終了して、この予算をお認めいただいたということです。予算の総額、3,975 億円。みんなで工夫、仲良く G o というふうに覚えてもらいたいのですが、この額、前年に比べて 10% 以上増えている、すごいね、ということなのですが、この中身はほとんど県費負担教職員の関係費。これが今までは新潟県に入っていたものが、政令指定都市に直接入るようになったということで、この部分が大きく変化したということでもあります。それを除きますと、大体前年並みと記憶いただければと思います。民生費は 24 億円増えています。まだまだ福祉関係の民生費は増額一方だろうと思います。普通建設のほうは前年に比べ 28 億円減っているということですが、11 月に大型補正予算を組みまして、140 億円以上積んでいるということです。公共事業をより切れ目なく公共事業をお出しできると考えております。またプライマリーバランス、収支均衡を確保していると、これを続けてまいりたいと思っています。

次からが 3 つの都市像ごとのご説明であります。安心協働都市の分野です。まずは妊娠・出産・子育てを切れ目なく支援していこうということです。マタニティナビゲーターを全区に配置をし、妊娠・子育てホットステーションの機能を強化いたします。また出産後、不安を持つ方への支援も実施をさせていただきます。また地域の茶の間、これを今地域包括のモデルハウスと名前を付けています。先日も、西区でもモデルハウスにお目見えしていただいたと。本当に地域の自治会の方から大変なご協力をいただいているということですが、そういうモデルハウスに今後毎月第何何曜日は保健師さんがいますということで、身近なところで健康チェック、健康相談が受けられる、そういうものがフィンランドという「ネウボラ」、新潟市版のネウボラを推進しようということでもあります。

さらに保育ニーズがどんどんどんどん高まっています。新潟市も待機児童ゼロということで頑張ってきたわけですが、年度変わりは何とか今回も待機児童ゼロで頑張りたいと思っています。しかし年度途中には 0 歳児、1 歳児、実質待機児童はいらっしゃるということで、よりの確に希望に近い所に何とかならないかということで、相談を密にしていきたいと思っています。放課後児童クラブ「ひまわりクラブ」の受け入れが小 6 まで拡充されました。従って、環境面で非常に厳しいところが多くあります。これを 5 年間の猶予期間のうちに改善をするということで、緊急度の高い所から充実をさせてまいりたいと思っています。さらに貧困の連鎖を断ち切るという意味で、子どもの貧困対策、これをしっかりとやっていく、そのための推進計画を策定いたします。

次のページが教育です。お陰さまで新潟市全ての小学生に農業体験と食育ということで、教育ファームが定着してまいりました。昨年はこのわくわく教育ファームはプラチナ対象

の優秀賞をいただけたということで、より頑張っていきたいと思っております。また大好き新潟体験事業、新潟の良さを伝え、愛着を育むと、これを今小中学校モデルで始めていますが、これを新年度は中等教育学校、市立高等学校に拡充するという事です。というのも小学生、中学生に地域の良さを知っていただく、あるいは地域に素晴らしいこういう大人がいるということで、「あっこんな大人になりたいな」という思いを育てているわけですが、高校に行くとうなっているのか。よく高校の教育が見えないと。東京のいい学校へどんどん行きなさいという教育をしているのかどうか、少なくとも私たちのころはそうだったわけですが、これを県立高校はどうなさっているのかと言う前に、まず自分でできる市立高校、ここで新潟の良さをさらに伝え、一度は東京に出てもまた戻って来る、そんな人間を育てていきたいと思っています。

そして県からの権限移譲、これをより有効活用しよう。まず少人数学級。今までは小学校1、2年生は32人以下でやってきたわけですがそれを3、4年生に拡充いたします。そして来年の開学する食料農業大学。今人口流出を抑えるためにも、多様な学びの場が必要だということですのでここを支援してまいります。

そしてその下が、地域包括ケアシステムの構築です。地域で医療、介護が受けられる。またそれを可能にする住宅リフォーム。これが今地域で看取りまでやっていただける医療、看護、介護チーム、立ち上げ、8つの区全て終わっているわけですが、まだまだその区の中で全然人的資源が足りない。あるいは空白に近いエリアがあるというのが現実です。このチームの立ち上げ、支援をしていくということがまず一つです。そしてその土台として、生活支援、介護予防など、健康寿命の延伸。ここを頑張ってください。これは地域の方々あるいは民間の企業さん、NPO、ボランティア、もう地域の総力を挙げて生活支援と健康寿命の延伸を頑張り、超高齢社会でも安心な新潟市をつくっていききたいという取り組みです。

次のページからが環境健康都市で、その中に健康寿命延伸というのがあります。このグラフを見てお分かりのように、新潟市、女性は非常に長生きです。政令指定都市の中で女性の平均寿命が一番長いのは新潟市ということでもあります。では右側の健康寿命はどうか。健康寿命はそれほど大きな差はないということで、男性も平均寿命は少し全国平均より長い。しかし健康寿命は少し劣るぐらいということでもあります。そうしますと、新潟市民は不健康な期間が長いということになります。これを改善しないと、ご本人もご家族も大変ということになります。

次のページに、ではどうすればよいかということ。まずは保健医療、介護データを分析して、健康度を地域で見える化したいということでやっております。まずは国保、そして後期高齢者医療、この保険に加入されている30万人でデータを見える化して、地域にお届けしているという状況です。それが下のところですが、各区でこんな状況ですと、血糖・血圧・脂質、この異常が見られる方は、西区の場合は新潟市平均より少しというか、

西区が一番割合が高いということなので、これは検診などを受けていただいているのかも  
しれないなということで、右側のほうを見ると、検診の3年連続未受診率はやはり西区は  
低いという数字になっています。北区、南区、西蒲区、この3つの区が3年連続受診され  
ていない方が6割を超えているということで、やはり特定健診をもっとしっかり受けてい  
ただく、そのきっかけにしていただければと思います。

次のページが、さらに健康寿命の延伸に向けて何をやるかということです。いろいろな  
ことをやっているのですが、健康づくりに関心を持っていただいている方は、大都市も田  
園地帯も大体3割です。あとの7割の方は私は関係ない、まだまだ大丈夫ということで、  
健康づくりに関心を持っていただけない。そういう方たちにどうするかということで、今専  
門家では3つのやり方があると言っております。一つがこのページにも書いてありますが、  
「健幸マイレージ」。健康づくりはあまり熱心ではないのだけど、健康にいいことをやると  
何かプレゼントがもらえると。では健康づくりに参加してみようかなというインセンティ  
ブ、言葉悪く言えば、物で釣るというやり方です。これは新潟市の場合は、環境にいいこ  
ともというのを加えて、「未来ポイント」にしておりますがさらに健康ポイントを充実をさ  
せていきたいと思っております。

そして2つ目のやり方がロコミです。例えば、女性の健康教室「カーブス」はもう女性  
のロコミによって会員数を増やしているということだそうです。男性はやってくれません  
かということカーブスの社長に聞いたら、男性は口数が少ないので駄目だということで、  
ロコミ、女性、ということでやっているそうですが、これをわれわれ地域の健康度を見え  
る化して、それも中学校区単位の健康度を見える化すると、相当わが事として考えていた  
だいて、地域の世話焼きがいろいろな方に健康づくりの大切さをロコミで伝えていただけ  
るのではないかということで、これが2点目です。そして3点目がこの下のコマですが、健  
康づくりに熱心に取り組んでいるつもりはないのだけど、歩いて快適で、自転車や公共交  
通で便利に移動できる。そういうまちをつくると、自然に1日の歩数が伸びるというこ  
とで、健康づくりとまちづくりを徹底連携させるスマートウェルネスシティ、これが3番目、  
有効だというのが専門家のご意見です。新潟市はその3つのものに最大限取り組んでいき  
たいと思っております。

そして自転車や公共交通で便利にというところで、新バスシステムBRTはおかげさま  
で一昨年の9月から始めさせていただいて、1年間のデータが大体そろいました。これま  
では10年間、大体1年4%利用者が減ると、10年間で40%減りましたということですが、  
この1年間は微増であります、0.8%増加したということになりました。もちろん乗り継  
ぎ、乗り換えのダブルカウントは除いてということです。そして「シニア半わり」。これも  
予測をはるかに上回る方から手を挙げていただいていると、これが今後バスの利用にさら  
に反映していくということで、持続可能なバスの土台が出来上がりつつあると思ってお  
ります。

次のページがワークライフバランス。今、働き方改革ということ、国も非常に熱心に行っています。新潟市は職場へ行く通勤時間が首都圏に比べて相当短い。これをぜひワークライフバランスがいいというように結び付けていただきたいと思います。そして若者、みんな含めてなのですが、男性も女性も育児、家事に役割を果たす。そんな生き方、働き方にしていこうということで、これが新潟暮らしのいい所だとU I J ターンにも結び付けたいと思っています。そして下のコマが今6次産業、新潟は一生懸命取り組んでいるわけですが、それに加えて、大地、田園の力を最大限活用しましょう。子育て、教育には、既に活用が始まっています。最近福祉と農業が非常に相性がいいと、農福連携という取り組みも、各地で新潟は始まっております。さらに保健医療、新潟は塩分を少し摂りすぎなので、「ちょいしおプロジェクト」、これを推進しよう。エネルギーについてはもみ殻の活用を今年完全に軌道に乗せたいと思っています。またこんな分野でいろいろ積極的に動いていると、都市部と農村部の交流が盛んになります。この交流を含めて、六次産業プラス6分野ということで、12次産業化をさらに推進してまいりたいということです。

次のページから「創造交流都市」です。まずは国土強靱化。これも昨年も大変厳しい災害が各地で頻発しました。新潟が提唱する防災・救援指導の考え方はより重要度を増しているということだと思います。次のページであります、そのことが国でも認定されてきました。これは北陸地方整備局が出した行動計画です。もし首都圏が大きな被害を受けた場合、それを支援する最大のセンターは新潟港だと、直江津港もサブで頑張らせるといふことあります。そしてその下が多様な働く場をつくっていきましょう。まずは中小企業の設備投資。結構意欲があるということが分かりましたので、これをより支援してまいります。そして工業団地はもうかなり売り切れているということなので、新しい工業系用地を用意しよう。創業、起業も支援していこうということです。

次のページがニューフードバレーの推進です。農業実践特区、かなりいい形で効果が出てきた、形が見えてきたということです。農家レストランも大人気という状況です。その下は規制緩和は使っていないけれども、どうせやるなら新潟で農業をやる、あるいは食に取り組むと、日本を代表するこういう企業が新潟でICT農業などを展開いただいているという状況で、これをより充実させていこうということです。

そして次のページが航空機産業。21世紀を支える新しい産業の柱をしっかりとつくっていこう。お隣の西蒲区ではエンジン関係の共同工場、そして南区では機体をつくる部品。機体部品の共同工場がスタートしているという状況です。さらに2020年、東京オリンピック、パラリンピックに向けて、4年間で国は文化プログラムを20万円やると公約をしております。その文化プログラムをいいものにしていく。そして後世の遺産、レガシーにしていく。そのためにはしっかりとした頭脳集団が必要だと「アーツカウンスル新潟」と、いわゆる芸術評議会です。これを文化庁のご支援をいただいて都市としては横浜市と新潟市、2つの市だけ支援をいただいているという状況です。また開港150周年、2019年1月



1日ということで、もう2年を切りました。そのときの新潟のまちをこんなまちにしていこうという姿を、より明確にしていきたいと思っております。

次のページが、食文化創造都市を明確にしようということでもあります。新潟は食と農と文化を融合させる、そんな都市になっていくのだと。食文化ツーリズム、ガストロノミーツーリズムも新潟がトップランナーになる。その象徴の一つはレストランバスということで、昨年引き続きというか、バスは違う第2号なのですが、そのレストランバスが新潟に到着して、4月から営業を3カ月開始するということです。生産者、料理人、消費者、これを徹底的につないでいく運動、ピースキッチン新潟運動を盛んにしよう。下のコマが外国人の方の誘客という面で、新潟東港に大型クルーズ船、去年はコスタビクトリアという船が2,000人を載せて、新潟東港にやってまいりました。その方たちから新潟のまちなかにおいでいただいて、かなり大賑わいの効果がありました。今年はそれより大きい船が2隻、東港に入ることが決まっております。「飛鳥Ⅱ」以下なら当然西港ということで頑張ると。

また東アジア文化都市。今年の日本代表都市は京都市です。今までの横浜、新潟、奈良、京都、日本の4都市は京都に秋集合して、中国、韓国の東アジア文化都市と一緒に交流をし、サミットをやるということです。

そして次のページが新潟暮らし創造運動ということで書いてあります。U I J ターンに向けた環境づくり。まずお隣の西蒲区の越前浜に移住モデル地区になっていただきました。ここは住民の14%がよそから来られた方という実績になっています。そういうところをもっと、もっと頑張るところに移住モデル地区にしますということで募っています。移住セミナー、移住体験交流ツアーなどを実施していきます。そして次のページが、もうU I J ターンをして新潟にいるという方も数多くいらっしゃいます。新潟はU I J ターンをまとめて「HAPPYターン」と名付けております。亀田製菓さんのお許しを得て使っていますが、HAPPYターンサポーター第1グループを認定させていただき、自分自らの経験を多くの方に語っていただくということであります。そして「新潟暮らし魅力発見・発信プロジェクト」。いろいろな方から新潟のいいところを発信していただくということです。

そして最後のコマです。暮らしやすさNo.1 「選択される新潟へ」と書いてあります。これからどこかへ旅行するなら新潟、住んでみるなら新潟市といわれるように、われわれおおいに頑張ってみようと思います。当然この厳しい人口問題に対処するには、行政が最大限頑張る必要がありますが、行政だけではだめだと、もう80万市民みんな一人ひとりが新潟市のPRサポーターになっていただきたい。市民、産業界、全ての新潟の力を結集した取り組みに広げさせていただきたいというのが、新年度の大きな方向です。以上、私から説明をさせていただきました。20分で少し無理なのですが、少し延びてしまいました。大変ありがとうございました。

(岩協会長)

市長、ありがとうございました。それでは皆さま方より、ご意見、ご質問等がありましたら、お願いしたいと思います。冒頭お伝えしたように、本日は自治協議委員と市長との懇談会の場であることから、ご発言は委員の方に限らせていただきます。できるだけ多くの委員からご発言をいただきたいため、ご意見、ご質問は簡潔にお願いいたします。それではご意見、ご質問のある委員の皆さま方はいらっしゃいますでしょうか。せっかくの機会でございます。浅妻委員、お願いいたします。

(浅妻委員)

大野小学校区の浅妻と申します。私も今黒埼の農村地帯に住んで農業をやっているものですから、やはり気になるのは農業問題です。先ほど市長が7ページの一番下を書いてある(仮称)食料農業大学創設というお話がチラッとあったのですが、これは来年の4月に開学予定なのですか。

(篠田市長)

はい。

(浅妻委員)

もう少し詳しく教えていただければと思います。もう一言加えさせていただいて。農村も今本当に若者が少なくて高齢化が進んでおりますので、なるべく若い人の育成といいですか、後継者の育成が急務かと私は感じておりますので、その辺のところを併せて、よろしくお願いいたします。

(篠田市長)

ありがとうございます。この食料農業大学ですが、基本的には胎内市と新潟市北区の2つにキャンパスを持つことにしています。「食料」と付けているのが一つのみそでありまして、本当の農学だけだったら新潟大学農学部というものがあるわけですが、それをもう少し食のことを広く取り組もうというのが大学の設立趣旨の中に書かれておりました。私も一昨年、ミラノの食の万博を視察させていただいて、そのときにイタリアのスローフード協会とイタリア政府がつくった食科学大学というものを見学する機会がありました。食をビジネスにすることなら何でもやろう、そういう学生を育てるということで、非常に実践的で、また世界を代表するようなシェフがこのときには来て、学食で料理を実際に作るとか、一流の食に触れられる、そんな工夫をされておりました。私たちも新潟市は食品産業の力が大変に強いという部分もありますし、さっきの生産者と料理人、シェフを徹底連携

させて食文化を高めるといふ取り組みに資する大学にさせていただけるのではないかと期待をしています。おそらく3、4年生が新潟市北区のキャンパス中心ということになるかと思ひます。そのような面で、こちらは新潟大学、一番大きい大学があつて、例えば「うちのDEアート」といふような交流をしてきているのですが、これからの大学は、地方の課題を発見し、そしてまた地方課題を解決する学生を育てるといふのが国の求める方向になつていて、新潟大学も創生学部といふものを新年度スタートさせます。

今まで大学に、なかなか地域とのコラボレーションと言つても、はいはい、と言ひながら、あまり動きが速くなかつたところもあります、今やもう地域貢献をしないと大学の評価を下げるということなので、私どもはいろいろな地域がいろいろな大学といふいろいろなテーマでコラボレーションをするチャンスだととらえております。そこにまた一つ新しい大学が加わるといふことで、非常にありがたいと思ひます。また農村は若者が少ない、あるいは後継者がいないといふことがいわれており、われわれも若い就農者をいかに伸ばすかといふことを、非常に大きな課題で取り組んでおります。新潟市の農業生産法人などのご協力をいただいて、だいぶ一時よりは若い就農者が増えてきました。

少しうろ覚えなのですが、昨年も64人位でしたか、まだまだ問題のある数字ですが、今まで50人以下といふ時代が長く続いていたことに比べれば、少し20代~30代の方が農業に関心を持っていただいている。その方が農家のご出身かどうかといふことは、どうも最近逆に農家さんでない若い方が農業に関心を持っていただけるということもあるので、アグリパーク等も活用いただいて、農業体験をやっていただき、その中で本当にやる気になつて方には、優秀な農業生産法人をご紹介するといふことで、効果が上がつております。いきなり全体を大きく底上げといふのは難しいかもしれませんが、やる気のある農家、意欲のある農家さんは西区区民にもいっぱいいらっしゃいますので、そういう方に光を当てる取り組みもより強化していきたいと思ひています。ありがとうございました。

(浅妻委員)

ありがとうございました。

(岩協会長)

では坂井委員お願いいたします。

(坂井委員)

公募委員の坂井です。いくつか、時間がないので短時間にすみません、4点ぐらいお伺ひしたいことがあつて、4つの視点です。一つは福祉の問題です。少しこれは聞きたいのですが、新潟版ネウボラの推進ところに地域の茶の間が入つていて、ネウボラといふのは確か妊娠期から子どもの就学までの間の家族の支援といふことなのに、茶の間のなかに入

るのはどうかと思っ、よく分かりません。何か流行っていることを少し真似するということが多いような気がします。少しそこは聞きたいです。

それから認知症の問題も、実は何が今問題になっているかという、認知症を隠して顕在化しない。医者の方へ行ったら、ずいぶん手遅れになっているという住民意識、市民の意識の問題であって、ここに認知症のいろいろ書いてありますが、そんなに簡単にいく問題ではないぞと、その辺り、今市長がどんなことが認知症について問題になっているのかということ、少し伺いたいたいということでもあります。

それから福祉の問題でいうと、新しい地域包括ケアシステムが始まりますが、総合事業の、しばらくの間、今までのサービスを希望すれば受けられるという話なのですが、しばらくというのはいつなのか。趨勢でいくと、どうも新しく介護が上がるのが駄目だというお話を聞かえて、これは実は大変になるのではないかとこの辺りが心配なので、福祉についてはそういうことが聞きたいです。

それから2つ目、交通問題、新バス交通システムの問題。これは今市長はそうおっしゃいましたが、西区の私たちの町内ではバスが乗りにくくなって嫌だという不満が非常に多いです。8割ぐらいの方が今でもそう言っています。僕はそんなふうにはいかない。実際バスのシステムのBRTをやるとすると、ヨーロッパでいくつか知っていますが、専用線を通したり、思い切った、市内に車が入るのを防ぐという対策を最初に出してやらないと、実際はなかなかうまくいかないと思います。正直言うと、ちょっとどこかでやっているやつを真似したけれども、実際は専用レーンつくったり、今モデルケースか実験をやりましたが、危なくてとても大変だというあたりで、これはなかなかうまくいくのかと疑問に思っています。

それから3つ目、産業の問題です。6次産業化というけども、今新潟市がやっているフジタファームとかローソファーム、フジタファームがレストランを出したり、ローソファームが農家をやったりというあたりは、製造も入って、1次、2次、3次がみんなが協力してやっている6次とは少し違う。そういう意味でいうと、新潟市の農業の産業力が付いていかないということが実際あるし。ニューフードバレーや航空機産業ということで産業をやっていますが、今ある新潟の業者の力がどうやって伸ばすかということ、大事にしないと、産業の振興はなかなかないと思います。

それから4つ目、新潟暮らしの問題で、新潟のイメージがあまりわれわれが思うほど高くない。例えば新潟から九州や沖縄に行くという人は大勢いますが、沖縄から九州に飛行機で来るというのはほとんど皆無です。そういう意味で言うと、新潟市自身の良さをどう新潟の人たちが感じられるまちになるのか、ということがないと良さが伝えられないということがあって、そういう意味で言うと、少し本当にみんなの力を引き出す力が足りないのではないかとこの感じがしていますので、伺いたいです。

(篠田市長)

ありがとうございました。何か市議会のように、ネウボラ、これはより広い意味でいえば、身近なところに保健師さんがいらっしやっていて、そこにすぐ健康相談、健康チェックに行けるという意味ですので、茶の間にいらっしやっても全く不思議ではないということでもあります。

認知症。これはスペシャルなテーマです。本当に大変に難しいことだと思いますが、まずは早期発見が重要だということで、私ども新年度、北区でまずモデルでやってもらうのですが、3つ質問をしていただくということです。テレビ、最近のニュースで何か覚えていますかというのが1点。そして今の季節は何ですか。今日は何月でしたかというごく簡単な質問。そこでえっとなられる方が何%か出て来るだろうというのが過去の他の地域でやった実績です。その3つの質問に的確に応えられない方、その方を早期に専門医に見ていただく、それも地域のお医者さんに見ていただくということで、北区でまずやらせていただくと。これは早期チェックというのは非常に重要なので、やはりみんな自分が認知症だ、あるいは家族が認知症だなんてなかなか認めたくないわけですが、それをごく簡単に見分けるというやり方、これは少し効果を見ながら、できるだけ多くの地域で、効果があるということであれば多くの地域で広げていきたいと思っています。

包括ケアは従来のサービスをしばらくの間続けますということですが、これはやはり生活支援のサービスなど、やっていただく事業所がどのぐらい手が挙がるかと、そしてそれが持続可能になるかどうか。手はかなり挙がっていただいていると認識しています。持続可能になるかどうか、これは新潟市だけではなくて、国が持続可能にするという意味があるかどうか。意思がない場合は、われわれはそれを強く求めていく必要があると思います。

新しいバスシステムは8割が不満だというお話ですが、それだと利用者は増えないので、実際に利用されている方がどう本当にお考えか。一番の選択は、乗るか、乗るのをやめるかということですので、今のところ、乗るのをやめる方よりも、乗る方が増えているということでありがたいなど。ヨーロッパに私もおかげさまで昨年も行かせてもらいましたが、今はもうまちなかはBRTです。専用レーンを問わず、まちなかを接続バスが日常的に走っているというのがヨーロッパの姿であります。

そして6次産業化。フジタファーム、ローソンは絵に描いたような6次産業化であります。フジタさんはまさに農業を土台にして、そこから最初がジェラートなど、自分たちの牛、乳製品を加工して作って、それを売ると。今はステーキレストランという形で、あくまでも農業基盤にしてやっていただいている。そしてローソン。これも基本的に新潟の農業青年と組んでやってくれているわけですが、ローソンさんはローソンファームで採れたもの以外、これも加工して売っていきたいと言っています。まだ今のところ、おにぎりとか無洗米とか、そしてローソンに野菜を売ると。これも首都圏のお店で新潟の農産品を売っていただけるというのが一番ありがたいことで、われわれは売り切る力があるローソン、

あるいはセブンアンドアイ、J R 東などと特別の関係を持っています。イオンさんは前から新潟の農産品、食材に注目してくれています。昨年12月、イオンの越谷レイクタウン店、イオン新潟南店を3倍、掛ける3にしたようなところですが、そこで新潟市のフェアをやっていただいて、東北フェアより売れたと言っていておられます。これからは売り切る力のある所に、JAが積極的にアタックをして、新潟市のいい農産品、食材、それを首都圏で売らせる。これが一番の、私はトップ効果になり、広く農家に恩恵が出てくると思っています。

新潟のイメージはあまりよくなかったと。これは確かにブランド研究所などがやる魅力度調査と、あまり大した調査ではないと思いますが、首都圏などでインターネットなどを使って調査をするということで、新潟市は大体140位とかそんなところをうろちょろしています。それを逆手に取って、日本一住みやすい140何位のまちといったシティプロモーションの映像を撮ったこともあります。これは一朝一夕には変えられませんし、新潟市と新潟県がイメージが重なっているという部分で、いい所もあれば悪いところもあるということでもあります。大体新潟市は観光都市として生きるということを昭和の時代の後半はほとんど放棄していたので、これを取り戻すというのは、なかなか一朝一夕にいかないと思いますが、しかしコンベンションなどは着実に増えています。新潟市の宿泊人口がそうばかにしたものではないということでもあります。用があって新潟に来てみたら、新潟はすごくいいまちだと。じゃあついでに観光してみようかなみたいな、少し新潟に寄ってきたら、少し観光してみると。それを青陵大学の学生たちが提案して、これは非常にいい提案でした。われわれもそういう提案に学んで、新潟の良さを、行政はもちろん、みんなから口コミも含めて伝えていただければありがたいと思っています。大変ありがたい質問、ありがとうございました。

(岩協会長)

ありがとうございました。では広瀬委員、お願いいたします。

(広瀬委員)

公募委員の広瀬です。6ページの子どもの貧困対策推進計画の策定とありますが、実際に最近の新潟においての子どもの貧困の問題がずいぶん言われています。それで西区にも子ども食堂が2つほどできて、市内にも何か所かあると聞いていますが、そればかりではなく、対策として、具体的などころでお話が、もし今できるところがあればお願いしたいと思います。

(岩協会長)

ではお願いいたします。

(篠田市長)

ありがとうございます。やはり貧困の連鎖を断ち切ると、子どもたちに罪はないのですが、比較的貧しい家庭に生まれてしまった。それが例えば学力にも反映していくということは、非常にまずいことだと思っています。そういう面で5年以上も前だったでしょうか。東区から始めていただいた、そういうところの子どもたちをしっかりと学力を付けていただくということで、中学生からでしたが、子どもの学力を上げるという取り組みが非常に効果があったので、今は全域に広げていただいています。これは本当にありがたいことで、学力でも高校進学あるいはほかの道をあきらめるということになってもらっては困るなど。学力をしっかりと付けていただいて、そしてこれから今奨学金の議論も盛んに行われています。返さなくてもいい奨学金を国、県、新潟市、それぞれ役割分担をして、例えば新潟で保健師さんをやっていただくとか看護師さんをやっていただくという方なら奨学金を返さなくてもいいのではないかというご意見は結構いただけると思います。まず最初はおそらく目的を絞ってという形になると思いますが、これは新年度、国、県、とりあえず立ち上がっていくと。それを少し見定めながら、新潟市も今までの奨学金制度を少し特徴づけをしていくことが必要かと思っています。

また子ども食堂。これも非常にありがたいのですが、子ども食堂が新潟市はもう十いくつ立ち上がっていると思うのですが、持続可能にさせていただくにはどうすればいいかと。そうすると、食材。食の原料をお米が基本ですが、それを提供いただければ続けられるというご意見。あるいはパーソナルサポートセンターさん、連合新潟さんの関係ですが、ここがやっていただいているフードバンク。いわゆる食べ物のロスをなくしましょうと。そういう運動と子ども食堂が結び付くと、すごくいいよねという形もありますし、また私は子ども食堂という名前自体、貧困な家庭の子どもが行くんだらうってというイメージはよくないよね、誰もが行ける食道にしたほうがいいよねということで、例えば地域の茶の間は、お昼を 300 円とかそういうもので出していただくのですが、そういうところと子ども食堂の機能が一体化して、毎週第何何曜日なら夕飯が食べられますよと。そこには子どもだけではなくて、おじいちゃん、おばあちゃんが一緒になって来ていただくが一番いいよねと。おじいちゃん、おばあちゃんは一部有料でもいいと思いますが、子どもは無料、おじいちゃん、おばあちゃんは 200 円、300 円で、こんなおいしいものが、それもみんなと一緒に食べられると。

今お年寄りの、認知症も大変な問題ですが、転んだりして寝たきりになる、それとひきこもってしまう。家からあまり出たくないというお年寄り。この方たちへの対策が大事で、虚弱、フレイルというのだそうですが、フレイルになると、寝たきりへのもう第一歩、第二歩だと。フレイルにならないためには、しっかりとした栄養に裏打ちされたお食事を週何回か食べていただくと、非常に効くと。じゃあそういうものを茶の間、子ども食堂、フ

レイル対策、こういうものを一体化して、多様な世代が楽しく晩ごはんあるいは昼ごはんが食べられると。そういうものをどうすればより多様に作り、そして持続可能にしていけるのかというあたりを、これも試行錯誤になると思いますが、新潟はその芽があるというのは非常にありがたいと思います。地域の茶の間の多目的化。子ども食堂の多目的化、そんなことを今非常に強い気持ちで立ち上げていただいている方たちと、話し合いをして、どういう役割分担をして、どういうことをやれば持続可能になるのか、それを考え、こういうやり方もある、こういうやり方もあると、多様なやり方を新潟から作っていきたいと思っています。ありがとうございました。

(岩協会長)

ありがとうございます。

(寺瀬委員)

西内野の寺瀬です。6ページの、安心して子どもを預けられる環境づくりの下の所に赤字で「ニーズに則した保育環境の整備」が挙げられています。先回のこの会議で、市立幼稚園の再編の方針について説明がございました。10年かけて半分ほどになるという話だったのですが、その辺のところの子どもに目が向く環境づくりというところと、少しどういう感じになるのか。今分かっている段階で、もう少しご説明をお願いできればありがたいのです。

(岩協会長)

ではお願いします。

(篠田市長)

市立幼稚園は今10園位あるのでしたか。その中の8つぐらい。少しこれは数字がうろ覚えですが、その大半が旧新津市にあるということで、これは昭和20年代の新津市の考えがそのまま継承されています。そのいい所もあるのですが、今は幼稚園より保育園がいいのだとか、どちらかというとなら保育園のニーズのほうが高まっていると。そういう中で同じ人的資源を有効活用するときに、市立幼稚園でいいのかどうかということが一番基本的な問題意識です。市立幼稚園は旧新潟市はそれほど多くないというあたりで、ここは私立、民の力に大きく依存している。それで民が伸びていただけてきたという実績もあります。今度幼稚園を認定こども園にどんどんしていけないと、保育ニーズに追いつかないという状況もありますので、どういうふうに限られた子育て資源を活用していくのか。その中で市立幼稚園について少し抜本的に考えさせてくれませんかということで、提起をさせていただきます。



この市立幼稚園の人的資源その他を認定こども園、保育園に向けられれば、待機児童ゼロに向けてさらに頑張れるという部分もありますので、その辺りを地域の皆さまのご理解をいただかないと駄目なので、特に旧新津市の地域の皆さまにお話を聞きながら、再編をさせていただきたいというのが基本です。とりあえず、以上です。

(岩脇会長)

ありがとうございました。では渡邊委員、お願いいたします。

(渡邊委員)

では一言だけご質問させていただきます。渡邊です。12 ページの特定健診についてですが、未受診率が五十数パーセント、受診率は四十何パーセントということだと思のですが、非常にこれを何とかしてあげてあげなくてはいけないのではないかと感じておりますが、市長さんは今後受診率を上げるためには、さらなる対策が必要と考えておられると思いますが、その辺りのことをお聞かせください。

(篠田市長)

まず健康度を地域ごとに見える化する。その中に特定健診、これだけしか受けていませんというデータも出てくると思います。そしてあとは本当に少し忙しいからということと特定健診を受けられないことがどんな重大な結果になるかということについても、これも事例が数多くありますので特定健診を3年受けない。そして、運動に配慮しない。飲食、結構大食い、大酒を飲むということだと、これは専門家に言わせると、それはもう犯罪的行為だという方もいらっしゃるので、新潟市長としてはなかなか言えませんが、そういうご意見を中学校区の健康度に見える化したときに、そういうことをお伝えして、ではやはり特定健診を受けるというのはセーフティガードの一つということ、多くの方に感じていただき、「あんた健診受けたか？」というのを、先ほどのロコミの力でお勧めいただく。そしてまた旧新潟市以外の所、合併地域の多くは集団検診をやっていたと。それを全部新潟方式に変えて、受診率がさらに下がったという所もございました。それを一昨年から改善して、元に戻すと。集団検診もやるということで、少し受診率が上がったと。受診しやすいようにしていくということも、われわれ地域ごとに考えていく必要があるかと、とりあえずそのようなことを考えています。ありがとうございました。

(岩脇会長)

ありがとうございました。大谷委員、お願いいたします。

(大谷一男委員)

1号委員の黒埼南ふれあい協議会の大谷と申します。高齢者のひきこもりをなくす一つの手法として、地域の茶の間づくりが叫ばれておりますが、住宅が比較的多く密集します都市部と違いまして、私どものような農村地域では、広い家屋敷で成り立っているために、全体として地域が広域になるということで地域の茶の間を画一的に普及させるには、少々無理があるように思われます。また農村部は、70代、それから80代になっても実態としていまだに大事な農業の担い手でもあり、仮に地域の茶の間となりますと、なかなか気がもめてくるというのが農村部の実態ではないかと思っております。ましてや繁忙期になりますと、なおのことということでありまして。また一方において、私はこの地域では、時間を見つけて親睦を図る意味で高齢者の輪投げ大会がとても盛んでございまして、高齢者の交流も盛んに行われております。過日、黒埼地区内の4つのふれあい協議会が、フロアカーリングの体験会を行いました。用具については江南区から借用いたしまして、実際に体験してみますと、高齢者でも十分に競技を楽しむことができることが分かりました。参加してくださった方々おおよそ60人ほどおりましたが、高齢者のひきこもりをなくし、適度に運動ができるという意味では、非常に有意義であることが分かりました。農村地域の地域の茶の間づくりに代わる新しい取り組みとしてご理解いただけないものかどうか、市長さんのご見解を伺いたいと思います。以上です。

(岩協会長)

ではお願いいたします。

(篠田市長)

ありがとうございます。農村部は農村部の特性がありますので、例えばわれわれがうらやましいぐらい広いお屋敷があって、そこでお茶飲み放題みたいなところも、地域の方同士がいたかねという感じでやっていただける。これはすごくありがたいことだと思っておりますし、また農業は定年がありませんので、70代、80代でも手伝い、あるいは主体的にやっていたらいいと思います。これも健康づくりを意識しているわけではないと思いますが、健康づくりにもすごくいい作用をしていると。そういう、例えば黒埼では、今までゲートボールが黒埼がメッカということで、これも地域の親睦ということにプラス、健康寿命延伸というありがたい効果もあるということで、今度はフロアカーリングはどうだろうか。これも私はいきなり丸抱え的にはできないと思いますが、活動支援ということで、どのようなことが有効なのか考えさせていただきたいと思っています。

そしてこれから中学校区単位で健康度を見える化すると、この地域はすごく健康度が高いよねと。平均年齢がそんなに若くないのに、健康度が高いという地域が出てくると思うので、そこに私どもは地域に健康へのポイントを差し上げるということ、新年度からやっていきたいと思っております。健康にいいことをやっていращやる。その地域に健康ポイ

ントを差し上げれば、今度はまたこういう取り組みもやろうと。今まで若干お金が足りなくてできなかったけれども、この健康ポイントを原資に新しい取り組みをやろうと。そして新潟市のモデルになろうという健康度を競い合う。そしてその結果新しいことをやる元手が少しは入るという形で、じゃあまたやろうと、そういう中にフロアカーリング。これじゃあ健康ポイントを元にやろうじゃないかというようなことも可能に。そんなに大変なお金を差し上げられませんが、グランプリになればそれなりのものになると思います。そんなことも今後新年度やらせてもらうので、そんなことも参考にしながら、ぜひ一番健康なのは黒埼のここだと言っていただけのように頑張ってもらいたいと思います。ありがとうございました。

(岩協会長)

ありがとうございました。時間もあまりありません。村井委員、最後でございます。最後、お願いします。簡潔明瞭をお願いします。

(村井委員)

時間ぎりぎりで来ないのかなと思っていました。ありがとうございました。包括ケアのことですが、私の考え方はいわゆる総合事業の件ですが、地域にとっては相当大変だという感想を持っているのですが、できることはしなくてはだめだということで考えております。ただ地域の受け止め方は、この前も、私は自治会長をやっていますから、班長会議で、いわゆる市から来て、区から来て説明会をしますということで話をしましたら、その会議場では何も出なかったのですが、個別にできないことを説明してもらっても困るという話をできて、発言いただいたという感じもありまして、総合事業を私の自治会ですが、大変だと、今の時点では感じています。そのところが市長さん、国との関係もあるのですが、よろしく本腰を入れてお願いしたいというのが一点です。

2点目がいわゆる中学校区で地域包括の関係ですが、これから高齢化が進むと、その維持というのか役割といいますか、相当重要になってくるのだらうと思います。これから人的にも予算的にも自立が図れるように要望したいというのが私のお願いであります。以上です。

(篠田市長)

そのとおりだと思います。国は一応絵を描き、作文をして、こうやればいいんだと言っていますが、そんなに簡単なものではないというのが実感です。そしてそれは全国どこでもやっていないわけで、それをいきなり新年度から、まず要支援の部分はこうだよと。新潟市が責任を持つてということで来るわけですので、国に言いたいことはいっぱいありますが、しかし今のままでは、これは持続可能にならないということも間違いない事実だらう

と。では新潟市は入念にできるだけ準備をして、そしてまた地域の方、あるいは民間の方、NPOボランティアの方、あらゆる方のご協力をいただいて、何とかまちなかでも、あるいは住宅地でも田園地帯でも、地域包括を可能にするという取り組み、これを今やっておかないと、2025年に団塊の世代、私もそうですが、みんな75歳以上になると、このとき病院には入れない。介護施設も入れない。もし自宅で看取りまでやっていただく環境、あるいは機能がないということになると、本当に大変なことになってしまうということなので、私ども最大限頑張って、そしてその頑張った中で、いろいろなことが、課題が出てくると思いますので、それを国にぶつけながら、持続可能な制度にして仕上げていくということが、一番重要だと思います。

やはり中学校区内でそういうものが機能できないと、本当に安心な暮らしにはなりませんので、それを何とかわれわれ中学校区内で確立していく。その中学校区みんな特徴がありますので、一つ一つこれに合せばいいんだというわけにはいかないのです、そういう中で多様な取り組みを皆さまに見てもらって、この取り組みが一番うちに向いているのではないか、これならできそうじゃないかということをお考えをいただきながら、実践をいただくと。まずはモデルハウスが中学校区単位にみんなできれば、できるだけ早期にできれば、これは健康寿命の延伸にもつながると思いますので、そういう準備ができたところからスペースの問題は空き家対策という、空き家を開けるということも、われわれ支援をさせていただく。そんな中で、新潟市が一つでも多く成功例をつくり、またその成功事例から学んで、できるだけ多くの区域で、この2～3年で、こういうふうにしていけばやれるかなというところまでこぎつけたいと思っております。そのためには行政がまず先頭にたって一番頑張らなければということで、新潟市の職員にもさらに気を引き締めて取り組ませたいと思いますので、またいろいろな課題があったらこの場を含めて、区役所にお伝えさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

(岩協会長)

ありがとうございました。予定した時間が相当オーバーしてまいりました。最後に市長、一言お願いいたします。

(篠田市長)

どうも今日は皆さまお疲れのところ、大変ありがとうございました。私もお時間をいただいて、2017年度、こんな問題意識を持って、こんなことに取り組みたいということをご説明させていただき、これを説明するたびに、これは行政職員はもちろん頑張らなければ駄目だけれども、行政だけでは、この超高齢社会の中での安心な新潟というのは作れないという感が強くなります。これからできるだけ多くの皆さまのお力をいただいて、そしてそれがまた生きがい、やる気が生きがいにつながると言ってもらえるような、そんな取り

組みに仕立てていきたいと思っています。そして何と言っても健康寿命の延伸。これが本当に大きな課題だということを、みんなで多くの皆さんに共有していただいて、健康なお年寄りが増えるのは全く悪いことはないわけですので、健康寿命の延伸、これこそが超高齢社会のさまざまな課題を解決する、あるいは先送りするいい意味での先送りですが、そういうことになるのだと。では健康づくりをできることでやっていこうではないかというような、日本一健康なまち新潟も併せて目指していきたいと思います。

また新年度、皆さまに多くの方にお世話になると思いますし、またこの年度末で卒業される皆さま方には、本当にありがたいと、今までご苦勞様でしたと申し上げまして、私のごあいさつにさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

(拍手)

(岩協会長)

ありがとうございました。以上で市長との懇談会を終了したいと思います。どうも市長、ありがとうございました。

(篠田市長)

どうもありがとうございました。お時間いただいて、ありがとうございました。

(岩協会長)

それでは第5期最後の自治協議会となりますので、退任委員より一言ずつ頂戴いたしたいと思います。よろしいですか。なお、時間の都合もありますので、送別会に参加される方は後で会場にて、いただきたいと思います。それでは、丹羽委員からお願いいたします。

(丹羽委員)

丹羽です。2期務めさせてもらって、いろいろ勉強にもなりましたが、これからもいろいろ学んでやっていきたいと思っています。いろいろどうもありがとうございました。

(拍手)

(岩協会長)

ご苦勞さまでございました。庄山委員、次お願いいたします。

(庄山委員)

庄山です。この1年間、お話を聞かせていただいて、なかなか意見することもできませんでしたが、これだけ西区のことを皆さまが一生懸命考えて話し合いをされているということに深く感銘を受けました。これからも西区をどうぞよろしくお願いいたします。ありが

とうございました。

(拍手)

(岩協会長)

ありがとうございました。続きまして富岡委員、お願いいたします。

(富岡委員)

本当に長い間、お世話になりました。今思い起せば、一番私が最初にここに参加させていただいたものは、黒埼の市民会館でバスの問題を討議したものが私の記憶に鮮明にあります。そして私は西区というものはこんなに広いのかと、そして皆さんが考えられているいろいろな諸問題はこんなにいっぱいあるのかと、4年間、ここに通わせていただきまして、本当にそれがつくづく身に染みて分かりました。それを私はこれから自分が生きる糧の中に、本当に西区を大事にして、そして今市長さんがおっしゃられましたように、高齢の、私は高齢というのも何か気が引けていたのですが、市長さんからお話を聞きまして、健康で、長生きして、そして自分の幸せを求め、皆さんの幸せを望み、そんなふうにこれから生きていきたいと思えます。本当に長い間お世話になりまして、ありがとうございました。

(拍手)

(岩協会長)

どうも長い間ありがとうございました。続きまして、事務局から職員の異動について、時間もありませんので、お願いいたします。

(眞島区長)

～移動職員紹介～

(岩協会長)

長い間、どうもご苦勞様でございました。ありがとうございました。それでは以上をもちまして今年度西区自治協議会の全ての議事を終了させていただきます。活発なご議論、円滑な議事進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。それと閉会に当たり、私、第5期の自治協議会の議事運営につきましては、皆さま方委員の皆さま方に大変ご協力いただきまして、この場をお借りいたしましてお礼を申し上げます、ありがとうございました。

(拍手)

(下川副会長)

ちょうど私が初めてこの自治協に参加して2年経ちました。大変いろいろな意見を持った人だとか、いろいろな問題があるということを改めて再認識した状態でございます。非常に短い期間、一緒になった方も、去られる方も、これからもどうぞよろしくお願ひしたいと思ひます。どうもありがとうございました。

(拍手)

(渡辺副会長)

全く分からずこの副会長という立場にならせていただいて、2年間本当に勉強になりました。至りませんでしたが、ありがとうございました。

(拍手)

(岩脇会長)

ありがとうございました。